

たかよし

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

人生を最高に旅せよ

校長 加納 直樹

「樹木にとって最も大切なものは何かと問うたら、それは果実だと誰もが答えるだろう。

しかし実際には種なのだ。」

これは19世紀のドイツの哲学者 フリードリヒ・ニーチェが遺した名言です。

この言葉は、「多くの人は果実を手に入れたいからこそ樹木を育てている。だから当然、最も重要なものは果実だと考えている。しかし、その樹木も種を蒔かなければ決して果実が実ることはない。種こそが大切なのである。」という意味です。

これを、子供たちの教育に置き換えて考えたとき、何を教えてくれるでしょうか。果実と言えるのは「見栄えのいい結果」つまりテストの得点であったり、お行儀のよい態度であったりといった、目に見える成果だと考えることができます。テストの点数や大人の言うことをよく聞く態度に教員や親は喜び、ほめてしまいがちであるけれど、種と言える「その子の核心部分」つまり人間性や個性こそが最も大切にしなければいけないものである。そう考えることができると思います。

私たち高井戸第四小学校の教職員は、「自ら未来を切り拓く心豊かでたくましい児童の育成」を目指し、子供たちに勉強だけでなく、生きていくために必要な、生きる力を教えているつもりです。今年度からスタートした全教職員で取り組んでいる「生き方科」は、ずばり学力だけではない、人間力を育てることを目指しています。それは、児童の生きる力の育成や、心の教育を私たち教職員が全員で担当するのだという決意の表れでもあります。

21世紀、様々な人々が分け隔てなく暮らすことができる共生社会を実現させるためには、自分さえよければよいのではなく、自分も他人も大切にするという意識をもつことが大切です。その点でも、本校の学校運営協議会やそよかぜ本部の皆様、保護者の方々が、高四小の子供たちみんなを大切に思って、我々と一緒になって学校を支えてくださっていることに、いつも感謝しています。これからも皆様と共に子供たちの未来のために力を尽くしたいと思います。

ちなみに私の一番好きなニーチェの名言は表題にもした「人生を最高に旅せよ」です。

日々の何事の経験も明日からの毎日に活かし、自分の未来を切り拓いていく姿勢をもって毎日を過ごすことが、人生を素晴らしいものにする。と解釈しています。